



2019年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2019年2月5日

上場会社名 文化シャッター株式会社
 コード番号 5930 URL <http://www.bunka-s.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 潮崎 敏彦

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 西村 浩一

TEL 03-5844-7200

四半期報告書提出予定日 2019年2月5日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年3月期第3四半期の連結業績(2018年4月1日～2018年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第3四半期	119,863	12.6	5,909	71.6	5,771	68.9	3,470	524.6
2018年3月期第3四半期	106,411	8.8	3,443	12.1	3,417	15.5	555	76.2

(注) 包括利益 2019年3月期第3四半期 1,759百万円 (31.0%) 2018年3月期第3四半期 2,549百万円 (27.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第3四半期	48.41	45.97
2018年3月期第3四半期	7.75	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年3月期第3四半期	159,187	70,666	44.3
2018年3月期	153,778	70,195	45.6

(参考) 自己資本 2019年3月期第3四半期 70,510百万円 2018年3月期 70,195百万円

(注) 2019年3月期第2四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2018年3月期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期		10.00		10.00	20.00
2019年3月期		10.00			
2019年3月期(予想)				10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年3月期の連結業績予想(2018年4月1日～2019年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	174,000	11.9	8,700	27.9	9,500	23.7	5,800	81.5	80.90

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2019年3月期3Q	72,196,487 株	2018年3月期	72,196,487 株
------------	--------------	----------	--------------

期末自己株式数

2019年3月期3Q	503,081 株	2018年3月期	503,025 株
------------	-----------	----------	-----------

期中平均株式数(四半期累計)

2019年3月期3Q	71,693,444 株	2018年3月期3Q	71,693,956 株
------------	--------------	------------	--------------

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(日付の表示方法の変更)

「2019年3月期 第3四半期決算短信」より日付の表示方法を和暦表示から西暦表示に変更しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(追加情報)	7
(セグメント情報等)	7
(企業結合等関係)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善などを背景に景気は緩やかな回復基調が続く一方で、大型台風や地震等の自然災害が発生した影響により、一時的に景況感は悪化しました。また、世界経済における一部の保護主義政策に伴う貿易摩擦の懸念など、景気は先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような状況の中、当第3四半期連結累計期間の売上高は、119,863百万円(前年同四半期比12.6%増)となり、営業利益につきましては5,909百万円(前年同四半期比71.6%増)、経常利益は5,771百万円(前年同四半期比68.9%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は3,470百万円(前年同四半期比524.6%増)となりました。

セグメントの業績は次の通りであります。

1. シャッター関連製品事業

重量シャッター及び軽量シャッター等が好調に推移したこと並びにBX BUNKA AUSTRALIA PTY LTDを連結の範囲に含めたこと等により、当第3四半期連結累計期間の売上高は44,983百万円(前年同四半期比26.0%増)となり、営業利益は5,163百万円(前年同四半期比42.1%増)となりました。

2. 建材関連製品事業

BXルーテス株式会社を連結の範囲に含めたこと等により、当第3四半期連結累計期間の売上高は50,332百万円(前年同四半期比4.0%増)となりましたが、利益面におきましては、グループ一丸となって利益の確保に取り組みましたが、病院・福祉施設向け引き戸やパーティション等が低調に推移した影響により、営業利益は385百万円(前年同四半期比53.2%減)となりました。

3. サービス事業

緊急修理対応及び定期保守メンテナンス契約等が好調に推移いたしましたので、連結子会社文化シャッターサービス株式会社を中心に、当第3四半期連結累計期間の売上高は16,715百万円(前年同四半期比21.0%増)となり、営業利益は2,719百万円(前年同四半期比83.7%増)となりました。

4. リフォーム事業

ストック市場への取り組みとして、ビルの改修等を手掛けるリニューアル事業及び住宅用リフォーム事業に注力しておりますが、特に住宅リフォームにおける競争激化の影響によって、連結子会社BXゆとりリフォーム株式会社を中心に、当第3四半期連結累計期間の売上高は5,032百万円(前年同四半期比16.0%減)となり、営業利益は29百万円(前年同四半期比73.0%減)となりました。

5. その他

ゲリラ豪雨等に対する浸水防止用設備を手掛ける止水事業等が堅調に推移したことにより、当第3四半期連結累計期間の売上高は2,799百万円(前年同四半期比11.3%増)となりましたが、利益面におきましては、エネルギー事業が低調に推移した影響等により、営業利益は113百万円(前年同四半期比2.3%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は159,187百万円となり、前連結会計年度末に比べ5,408百万円増加しました。流動資産は91,325百万円となり、6,111百万円増加しました。これは、受取手形及び売掛金が減少(7,419百万円)した一方で、商品及び製品が増加(6,938百万円)、現金及び預金が増加(3,697百万円)したことが主な要因であります。固定資産は67,861百万円となり、702百万円減少しました。これは、建物及び構築物が増加(776百万円)、土地が増加(729百万円)した一方で、投資有価証券が減少(1,830百万円)したことが主な要因であります。

当第3四半期連結会計期間末の負債は88,520百万円となり、前連結会計年度末に比べ4,938百万円増加しました。流動負債は55,177百万円となり、3,345百万円減少しました。これは、支払手形及び買掛金が増加(1,040百万円)した一方で、短期借入金が減少(7,059百万円)、賞与引当金が減少(1,610百万円)したことが主な要因であります。固定負債は33,343百万円となり、8,283百万円増加しました。これは、長期借入金が増加(1,514百万円)した一方で、転換社債型新株予約権付社債が増加(10,000百万円)したことが主な要因であります。

当第3四半期連結会計期間末の純資産は70,666百万円となり、前連結会計年度末に比べ470百万円増加しました。これは、配当金の支払い(1,434百万円)、その他有価証券評価差額金の減少(1,399百万円)により減少した一方で、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上(3,470百万円)により増加したことが主な要因であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年3月期の連結業績予想につきましては、2018年5月15日の「平成30年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	20,017	23,714
受取手形及び売掛金	45,683	38,264
商品及び製品	11,717	18,655
仕掛品	943	1,149
原材料及び貯蔵品	3,877	4,512
その他	3,088	5,121
貸倒引当金	△114	△93
流動資産合計	85,213	91,325
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	10,622	11,399
土地	11,540	12,269
その他(純額)	8,040	7,167
有形固定資産合計	30,203	30,836
無形固定資産		
のれん	5,796	5,671
その他	5,111	5,202
無形固定資産合計	10,907	10,873
投資その他の資産		
投資有価証券	18,642	16,812
退職給付に係る資産	1,743	1,760
その他	7,385	7,892
貸倒引当金	△317	△313
投資その他の資産合計	27,453	26,151
固定資産合計	68,564	67,861
資産合計	153,778	159,187

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	32,143	33,183
短期借入金	11,700	4,640
未払法人税等	773	1,172
賞与引当金	3,116	1,505
役員賞与引当金	98	90
工事損失引当金	57	129
その他	10,633	14,454
流動負債合計	58,522	55,177
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	—	10,000
長期借入金	3,350	1,835
役員退職慰労引当金	631	361
退職給付に係る負債	18,351	18,600
資産除去債務	51	52
その他	2,674	2,493
固定負債合計	25,059	33,343
負債合計	83,582	88,520
純資産の部		
株主資本		
資本金	15,051	15,051
資本剰余金	12,298	12,298
利益剰余金	37,245	39,282
自己株式	△156	△158
株主資本合計	64,439	66,474
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,331	3,931
繰延ヘッジ損益	0	△0
土地再評価差額金	△76	△76
為替換算調整勘定	138	△153
退職給付に係る調整累計額	364	335
その他の包括利益累計額合計	5,756	4,036
非支配株主持分	—	155
純資産合計	70,195	70,666
負債純資産合計	153,778	159,187

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
売上高	106,411	119,863
売上原価	78,019	87,073
売上総利益	28,391	32,790
販売費及び一般管理費	24,947	26,881
営業利益	3,443	5,909
営業外収益		
受取利息	14	17
受取配当金	247	280
受取賃貸料	54	56
助成金収入	12	5
投資損失引当金戻入額	63	—
その他	143	162
営業外収益合計	536	523
営業外費用		
支払利息	46	51
持分法による投資損失	276	331
コミットメントフィー	26	6
子会社清算損	74	—
貸倒引当金繰入額	9	3
その他	129	267
営業外費用合計	562	660
経常利益	3,417	5,771
特別利益		
固定資産売却益	141	0
負ののれん発生益	—	43
段階取得に係る差益	—	57
特別利益合計	141	100
特別損失		
固定資産売却損	0	4
固定資産除却損	1,769	2
その他	127	—
特別損失合計	1,896	7
税金等調整前四半期純利益	1,661	5,865
法人税等	1,106	2,385
四半期純利益	555	3,479
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	8
親会社株主に帰属する四半期純利益	555	3,470

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
四半期純利益	555	3,479
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,982	△1,332
為替換算調整勘定	△39	△246
退職給付に係る調整額	45	△64
持分法適用会社に対する持分相当額	5	△78
その他の包括利益合計	1,993	△1,720
四半期包括利益	2,549	1,759
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,549	1,750
非支配株主に係る四半期包括利益	—	8

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

セグメント情報

I 前第3四半期連結累計期間(自2017年4月1日 至2017年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	シャッター 関連製品 事業	建材関連 製品事業	サービス 事業	リフォーム 事業	計				
売上高									
外部顧客 への売上高	35,702	48,391	13,810	5,991	103,895	2,515	106,411	—	106,411
セグメント 間の内部売 上高又は振 替高	2,750	23	655	344	3,773	136	3,910	△3,910	—
計	38,452	48,415	14,465	6,335	107,669	2,651	110,321	△3,910	106,411
セグメント 利益	3,634	822	1,480	107	6,045	116	6,161	△2,717	3,443

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、太陽光発電システム事業、止水事業、不動産賃貸事業、家具製造販売事業、保険代理店事業、建築設計事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△2,717百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,715百万円、棚卸資産の調整額△2百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自2018年4月1日 至2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	シャッター 関連製品 事業	建材関連 製品事業	サービス 事業	リフォーム 事業	計				
売上高									
外部顧客 への売上高	44,983	50,332	16,715	5,032	117,064	2,799	119,863	—	119,863
セグメント 間の内部売 上高又は振 替高	3,321	28	390	5	3,745	187	3,933	△3,933	—
計	48,304	50,360	17,105	5,038	120,809	2,987	123,796	△3,933	119,863
セグメント 利益	5,163	385	2,719	29	8,297	113	8,411	△2,502	5,909

- (注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、太陽光発電システム事業、止水事業、不動産賃貸事業、家具製造販売事業、保険代理店事業、建築設計事業等を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額△2,502百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,498百万円、棚卸資産の調整額△3百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「シャッター関連製品事業」セグメントにおいて、前連結会計年度に取得したBX BUNKA AUSTRALIA PTY LTD (旧社名: ArcPac Garage Doors Pty Ltd) の取得原価の配分について、暫定的な会計処理により のれんを計上しておりましたが、追加支払額に基づく取得原価の調整及び取得原価の配分が完了したことにより、のれんが減少しております。これに伴うのれんの減少額(償却前)は、当第3四半期連結累計期間において、1,721百万円であります。

「建材関連製品事業」セグメントにおいて、新たにBXルーテス株式会社(旧社名: ルーテス株式会社)の株式を取得し、同社を連結の範囲に含めております。なお、当該事象によるのれんの増加額(償却前)は、当第3四半期連結累計期間においては71百万円であります。

(重要な負ののれん発生益)

「建材関連製品事業」セグメントにおいて、持分法非適用関連会社であった株式会社エコウッドの株式を追加取得したことにより、同社を連結の範囲に含めております。なお、当該事象による負ののれん発生益の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては43百万円であります。

(企業結合等関係)

(比較情報における取得原価の当初配分額の重要な見直し)

2018年3月1日に行われたBX BUNKA AUSTRALIA PTY LTD (旧社名: ArcPac Garage Doors Pty Ltd) との企業結合について前連結会計年度において暫定的な会計処理を行っておりましたが、第2四半期連結会計期間に確定しております。

この暫定的な会計処理の確定に伴い、当第3四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に含まれる比較情報において取得原価の当初配分額の重要な見直しが反映されており、主として、無形固定資産のその他に3,162百万円、繰延税金負債に948百万円が配分された結果、前連結会計年度末ののれん6,445百万円は、2,345百万円減少し、4,100百万円となっております。